

全 員 協 議 会 記 録

令 和 5 年 6 月 2 7 日 ②

【開催日】 令和5年6月27日（火）

【開催場所】 議場

【開会・散会時間】 午前11時3分～午前11時11分

【出席議員】

議長	高松秀樹	副議長	中村博行
議員	伊場勇	議員	大井淳一郎
議員	岡山明	議員	奥良秀
議員	笹木慶之	議員	白井健一郎
議員	恒松恵子	議員	中岡英二
議員	中島好人	議員	福田勝政
議員	藤岡修美	議員	古豊和恵
議員	前田浩司	議員	松尾数則
議員	宮本政志	議員	森山喜久
議員	矢田松夫	議員	山田伸幸

【欠席議員】

議員	吉永美子		
----	------	--	--

【事務局出席者】

局長	河口修司	議事係長	山田寿実子
議事係主任	岡田靖仁	庶務調査係書記	若野みちる

【付議事項】

視察報告について

午前11時3分 開会

高松秀樹議長 それでは全員協議会を始めます。本日の付議事項は、視察報告についてでございます。最初に、吉永美子議員が本日視察報告をする予定でしたが、疾病のため欠席ということで、お手元に視察報告書を配付してあります。それをもって代えたいと思います。次に、視察報告を矢田松夫議員、お願いいたします。

矢田松夫議員 皆さん方のお手元に視察報告書を出しております。本来なら、会派で行くべきところではありますけれど、1人で行き、会派「明石かがやきネット」に対応していただきました。ちょうど1月24日は大雪で、電車の中に閉じ込められて大変でした。さらに、新型コロナウイルス感染症も蔓延している中、行きました。皆さんが既に御存じのように、明石市は泉房穂市長の下、福祉の面で非常に改革をしているということで、私もどうにかして行きたかったんですが、明石市の視察は1年先まで順番待ちでした。視察目的はそこに書いていますように、明石市におけるこども支援について実情を調査いたしました。明石市は人口約30万人で、五つの無料化によって9年連続の人口増、兵庫県内で人口はトップランクであると。さらに、にぎわい、あるいは安心についても全て県内でトップということでありました。アからエまでの既に全国的に有名な施策をやっているということで、いわゆる循環型の福祉施策を実施すれば、人が来ると。人が来れば、そこに生活できる。生活ができれば、そこで人口の増加になるというような施策をやっているということでもあります。そして、子供を核としたまちづくりをやっているということでもあります。三つ目の考察といたしまして、出生率が1.7%ということで、人が増えれば、子供が増えれば、税の増収につながり、さらに経済も好転していくということで、よく循環してぐるぐる回っていくということです。二つ目、パピオスあかしは明石駅の目の前にある総合デパートのような、この辺で言えば、小野田サンパークのようなところの中にあります。これは通称「明石こども広場」といまして、保護者、子供同士で交流や情報交換ができ、図書館、市内最大規模のプレイルームが設置されていることでもあります。以上で報告を終わりますが、とにかく皆さん方も明石市に1回行けば、泉房穂市長の福祉施策が体験でき、勉強になるんじゃないかと思っております。最初に言いましたように、1年先まで視察できないような状況ではありますが、ぜひ皆さん方も行って、実情を調査していただければと思っております。簡単ですが、この中に記載してある内容について私の報告に代えたいと思っております。以上です。

高松秀樹議長 ただいまの矢田議員の報告に対しまして質疑はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）続きまして、会派創政会の報告を求めます。

森山喜久議員 次のページになります。会派創政会から視察報告をさせていただきます。令和5年5月15日に島根県雲南市、令和5年5月16日に島根県安来市のえ～ひだカンパニー株式会社、それぞれ地域運営組織（RMO）の取組について視察してきました。視察したメンバーは、松尾数則会派長、ほか総勢6人です。報告事項であります。島根県雲南市自体は平成6年に市町村合併を行って、面積は555平方キロメートル、地域運営組織は自主組織が市内に30組織あり、そして小学校区域単位で編成されております。そして、雲南市は地区計画を各組織が自主的につくるということで、各組織で5か年計画をつくられている。その計画を立てる上で、アイデア出しが重要ということで、アイデアが出るように協議体が工夫しながら行っているということで、また、その取組を発表する中で、地域同士で励ます体制をつくっていらっしゃいました。次のページになります。2ページの考察として、市が中心ではなくて、各地域の中心となる人、平均年齢は60歳から70歳が、皆からアイデアが出るように協議体を育成してきており、また取組の発表を行うことによって、お互いが切磋琢磨し、地域同士で励ます体制をつくっておられます。山陽小野田市での地域運営組織（RMO）の取組を進める上でも、予算の確保、市と地域の人材育成が必要だと感じました。（2）島根県安来市のえ～ひだカンパニー株式会社ですが、2016年8月から株式会社として、比田地区で活動を開始されております。比田地区の人口は400世帯、1,000人余りで、安来市役所まで車で45分かかり遠距離になりますので、高校生からは寮生活を送る子供たちが増えております。盆踊りや運動会、文化祭、観光客を見に来る田植えまつりがシンボルイベントとして行われております。地域ビジョンができるまでということで、地域ビジョンを1年かけてつくられました。比田地区の活性化を目的に行う中で、世代別ワークショップ、そして全体ワークショップを経て地域ビジョンをつくってこられています。そのときに

1, 469のアイデアが出て、みんなで話し合っ88まで絞る中で、そのうち44事業は今、形となって見えているという報告がありました。本格始動として、2016年3月に地域ビジョンが完成し、2016年8月に「え〜ひだカンパニー」を立ち上げ、2017年3月1日に株式会社となっています。会社化を選択した理由として、人が代わっても継続する仕組み、社会的信用力の高さ、責任ということで、人が代わっても継続する仕組みにこだわってやられたという話を聞いております。また、地域おこし協力隊をうまい具合に取り入れて、活動を活性化させてこられました。考察については、地域づくりのポイントとして、「未来志向として種をまき続ける。失敗を恐れず挑戦し続ける。頼る、教えてもらう。堂々と真似をする。地域の若者が楽しそうにしていたら、地域内外から若者が引き寄せられる」と言われていました。持続可能な地域づくりを目指す上で、以上のことを参考にして役立てていきたいと思います。以上になります。

高松秀樹議長 ただいまの会派創政会の視察報告に対して質疑はございますか。
(「なし」と呼ぶ者あり) それでは、以上で全員協議会を終わります。

午前11時11分 散会
